

包括的な学校改善の推進に向けた校長のマネジメント

中核校	芦別市立芦別小学校	指定校	芦別市立上芦別小学校、芦別市立芦別中学校 芦別市立啓成中学校
-----	-----------	-----	-----------------------------------

実践前の状況

- ・中学校統合を控え、義務教育9年間を見通した目指す子ども像を明確にする必要があった。
- ・校長からのトップダウンだけでなく、教職員全体が自分事として目標に向かって取組を推進する必要があった。

実践の概要

- 中学校統合を踏まえた目指す児童・生徒像の設定
- ・中学校の統合に向けた「統合準備委員会」において作成された目指す生徒像の素案をもとに、校長会が中心となり、原案を作成した。
 - ・最終決定した目指す生徒像に基づき、各学校における学校経営方針に、育成する資質・能力を明確に位置付け、校種間の連携を意識した取組を推進した。
- コアチームによる業務改善に向けた提案
- ・コアチームが中心となり、学校課題についての改善策を集約し、課題を整理した。
 - ・整理した改善策については、職員全体が合意形成を図ることができるよう、各担当分掌において実現に向けた方策となるように促した。
 - ・実施可能な改善策については、校長の判断で決定した。



【統合を踏まえた目指す生徒像】

実践の充実にに向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・学校課題を改善するための方策については、優先順位を付けて取り組むことや、効果が大きい取組を重視するようコアチームに助言した。
- ・学校単独で改善可能な取組や保護者との共通理解が必要な取組、芦別市全体で解決する取組など、短期的・中長期的なスパンで考えることの重要性を助言した。
- ・改善に向けたアイデアが出るよう、管理職を除く教員同士の十分な話し合いの時間を設定した。

〔コアチーム員の取組〕

- ・実現が難しいことでも意見集約したことにより、教職員の学校経営に対する参画意識が一層高まり、学校課題を自分事として考えるようになった。

成果()と今後の課題()

学校評価で「社会に開かれた教育がなされている」と肯定的に回答した保護者が増加した。(R5前期:87.6% R5後期:93.3%)

学校関係者評価で「学校経営のビジョンが明確であり、進行管理と改善が行われている」の項目において、肯定的な評価が上がった。(R4:B R5:A)

学校評価で「学校が楽しい」と肯定的に回答した児童の割合において、目標を達成できなかったことから、学校生活の充実を図る取組を推進する必要がある。(R5前期:75.5% R5後期:78.5%)